

小樽市立北陵中学校 学力向上改善プラン

1 実施期間

令和5年4月1日～令和6年3月31日

2 生徒の実態

本校の生徒は素直な生徒が多い。特に学校行事や部活動は意欲的に取り組んでいる。学習面では基礎学力の定着に課題があり、なかなか点数に結びつかない生徒も多い。また、主体的に家庭学習を行える生徒は少ないなど、生活習慣の確立も課題となっている。

① 全国学力・学習状況調査結果（教科）

令和4年度は、国語において正答率64%（昨年度本校60%）、誤答率31.3%（34.7%）、無回答率4.7%（5.3%）となり、令和3年度と比べ正答率や誤答率、無回答率のすべてで改善が見られた。また、数学において正答率49%（51%）、誤答率39.6%（32.9%）、無回答率11.4%（16.1%）であった。昨年度と比べて、正答率および誤答率に課題が見られ、無回答率に改善が見られた。理科において正答率は47%、誤答率60%、無回答率3%だった。昨年は理科は未実施のため数値のみの記載。

② 全国学力学習状況調査結果（生徒質問紙 生活習慣・学習習慣）

質問紙については、「平日の家庭学習時間2時間以上」が29.2%で、北海道平均の35.2%と比べて課題が見られた。また、「全く勉強しない」は2%で北海道平均の6.7%と比べて成果が見られた。家庭において「自分で計画をたてて勉強をしている」生徒は66.6%で北海道平均の59.7%よりも高い割合となった。「新聞を読んでいる生徒」の割合は北海道平均よりも高い割合となった。「1時間以上読書をする生徒」の割合は北海道平均よりも低い割合となった。「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」は、北海道平均よりも14.5ポイントも低い結果となった。

③ 標準学力検査

令和4年度は全国平均との差が国語-8.2、数学-5.9、英語-10.7ポイントであった。国語においては、内容を読み取ることや作文などの「書くこと」に、数学ではデータの活用や図形の問題に、英語では書くことの領域に課題が見られた。

一方、国語では、漢字を書くこと、数学では比例・反比例の問題、英語では聞くことの問題において改善が見られた。

3 学年ごとの定着目標（数値目標）

<国語科>

学年	定着目標
1年	・情報を基に、自分の考えを書くことができる。（50%） ・配当漢字を読み書くことができる。（70%）
2年	・文章の内容や構成、表現上の特色を踏まえ、自分の考えを書くことができる。（60%） ・配当漢字を読み書くことができる。（75%）
3年	・複数の資料から得た情報を整理して、伝えたい事項や考えを明確にして書くことができる。（60%） ・配当漢字を読み書くことができる。（70%）

<数学科>

学年	定着目標
1年	・正負の数の四則計算ができる。（70%） ・方程式を解くことができる。（50%） ・いろいろな図形の作図方法を考えたり、作図したりすることができる。（60%）
2年	・連立方程式を解くことができる。（65%） ・一次関数を求めたり、グラフを書いたりすることができる。（60%） ・合同な図形を証明することができる。（50%）
3年	・根号をふくむ式を計算することができる。（50%） ・二次方程式を解くことができる。（60%） ・三平方の定理を利用して辺の長さを求めることができる。（60%）

定着目標が達成できたかどうかはチャレンジテストや各種単元テスト等で評価する。

<学習・生活習慣（家庭学習等）>

学年	定着目標
1年	・1時間以上家庭学習が出来る。（60%） ・ゲームの使用時間を2時間未満とする。（70%） ・ケータイの使用時間を2時間未満とする。（70%）
2年	・1時間以上家庭学習が出来る。（60%） ・ゲームの使用時間を2時間未満とする。（75%） ・ケータイの使用時間を2時間未満とする。（70%）
3年	・1時間以上家庭学習が出来る。（60%） ・ゲームの使用時間を2時間未満とする。（75%） ・ケータイの使用時間を2時間未満とする。（70%）

4 目標を達成するための具体的な方策

(1) 基礎学力の確実な定着を図る取組

- ① 数学において、習熟度別少人数指導により個に応じた指導をする。
- ② 中1ギャップ解消に向け、数学を中心に学習支援教員を配置する
- ③ 全教科における ICT 機器、タブレット等の有効活用。授業において ICT を活用し、視覚情報を多く与えることで理解を深める。
- ④ 各教科で反復学習、単元小テスト、チャレンジテスト、全国学力・学習状況調査の過去の問題等を効果的に行う。
- ⑤ 言語活動を通し生徒たちが主体的に取り組める授業を実践する。
- ⑥ 放課後学習室（北陵学習室）や長期休業において、補習を実施し、基礎学力の定着を図る。
- ⑦ 朝読書・NIEタイムの取り組みにより、集中力、読解力、表現力の向上を目指す。

(2) 授業改善を図る校内研修の取組

- ① 「課題提示」「まとめ、確認」の提示統一。
- ② 授業のパッケージ（授業構成）の中に振り返りの時間を設け、対話的な活動の工夫を通して、言語活動の充実を図る。
- ③ 全学年統一した授業規律の確立と徹底を図る。
- ④ 授業のユニバーサルデザイン化を図る。
- ⑤ 学力向上推進委員会を開催し、問題点検証及び改善策を提案する。

(3) 望ましい学習習慣・生活習慣を形成する取組

- ①授業と連動した家庭学習課題の設定を行う。
- ②スケジュール手帳を活用し、規則正しい生活習慣を送るための指導を行う。
- ③朝読書を実施し、「読む」活動に親しませる。
- ④学校司書と連携し、生徒の読書の質と量を高める。
- ⑤放課後学習室（北陵学習室）を活用し、家庭学習習慣の育成を図る。
- ⑥学習掲示板を活用し、学ぶ意欲の向上に努める。
- ⑦スマート7を活用し、保護者に携帯やスマホの時間の使い方について意識を高める働きかけを行う。
- ⑧保護者会等でメディアと学力の関係についてふれ、生徒のメディアに触れる時間の短縮を目指す。
- ⑨小中一貫による教育の推進（小中の連続に責任を持つ指導）

12月	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修 ・生徒アンケート実施 ・保護者アンケート実施 ・学校評価
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・冬季休業中の学習会の実施 ・3年生学年末テスト
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・1、2年生学年末テスト ○学力向上改善プランの評価・改善 ・チャレンジテスト春休み版の実施 ・学力向上検討委員会「確認テスト」の実施
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・春休みの学習の仕方提示 ○新学力向上改善プランの作成 ・全国学力・学習状況調査の過去問題の効果的な活用

5 実施計画

年月日	計画内容
R5年	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上推進委員会 ・学力向上プランの作成
4月	<ul style="list-style-type: none"> ○R5全国学力・学習状況調査の実施 ○標準学力調査実施（2年生） ・チャレンジテスト前年度問題の実施 ・全国学力・学習状況調査の過去問題の効果的活用 ・生活・学習規律の確認 ・放課後学習室（北陵学習室）開校 ・教室環境整備 ・学習掲示板設置 ・復習テスト（学力テスト）全学年実施 ・保護者会の実施 ・評価・評定の確認
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修 ○全国学力・学習状況調査 自己採点・速報 ・校内研修 ・テストに向けて学習方法の提示
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修 ・学期末テストの実施 ・チャレンジテスト学期末問題の実施と分析 ・チャレンジテスト1学期サポート問題の実施
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットモラル教室 ・保護者会の実施 ・生徒アンケートの実施と分析 ・学校評価（前期） ・夏季休業中の学習会の実施
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修 ・1、2年復習テスト（学力テスト）
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生復習テスト（学力テスト） ○R5全国学力・学習状況調査結果分析
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生復習テスト（学力テスト） ○保護者会での全国学力・学習状況調査結果の説明
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修 ・期末テスト ・3年生復習テスト（学力テスト） ・チャレンジテスト学期末問題の実施と分析

6 評価方法

- (1) 基礎学力の確実な定着を図る取組
 - ①授業交流や生徒アンケートによる評価を行う。
 - ②全国学力・学習状況調査結果の分析
 - ③標準学力検査結果の分析
 - ④チャレンジテスト結果の分析
 - ⑤小テストの分析
 - ⑥単元テストの分析
 - ⑦定期テストの分析
 - ⑧学力向上推進委員会による検証
- (2) 授業改善を図る校内研修の取組
 - ①教科部会における授業パッケージ、授業構成の検討
 - ②校内研究授業における研究協議
 - ③授業交流における意見交換
 - ④生徒アンケート結果の分析
 - ⑤学校の自己点検の分析
- (3) 望ましい学習習慣・生活習慣を形成する取組
 - ①生徒アンケートの分析
 - ②保護者アンケートの分析
 - ③学校評議委員会における意見聴取
 - ④学力向上推進委員会による検証